文学的文章 表現・描写の捉え方

従兄弟の子どもたちが遊びにきたことがある。

三人姉弟で、一番上がわたしと同じ年だった。三人は大きい町に住んでいて、着ているものも雰囲気も、どことなく街のにおいがした。

【最初のうち、①三人とどうやって遊べばいいかわからなかった。三人が普段はどんな遊びをしているのかも知らなかった。といって、言葉の通じない人と向き合っているようだった。三人を無視してどこかに遊びに行く気にもならなかった。ひどく緊張したまま三人のそばでうろうろしていると、だんだん疲れてきた。そして、どうしてこの子たちはうちに来たんだろう、いつまでいるんだろうと、負けたような気持ちで思いはじめるのだった。】

それなのに、夜になる頃には、もう一緒に走りまわって遊んでいた。

その子たちは何日かうちに泊まり、そして帰る日はすぐに来た。

わたしは母と一緒に門のところでその子たちを見送った。その子たちは楽しそうにバス停に向かって歩いていくのに、わたしの胸の中には重いものがたちこめはじめる。それは黒い影のようなもので、じわじわと気持ちの中に広がった。

見送ってから家に入ると、家はそれまでとはまるで違ってしまっていた。誰もいない。②しんとして、空洞のようだった。

わたしは畳の上にごろんと転がった。つまらない気持ちがだんだん大きくなる。わたしだけがのけ者にされた感じ。わたしは畳の上をごろごろ転がりはじめた。襖のところまで転がって、また反対にごろごろ転がる。だんだん腹も立ってきた。なんだかむやみに誰かを蹴飛ばしたい気持ちだった。

（岩瀬成子『大きい家 小さい足』理論社 による）

表現・描写の特徴

文章は、表現や描写の仕方にさまざまな特徴がある。

●文体（文章の様式、スタイル）

・文末…常体「～だ。～である。」（硬い印象）
　敬体「～です。～ます。」（やさしく語りかけるような印象）

・語句…和語（やわらかい語感）、漢語（硬い語感）、
　外来語（新鮮で軽快な語感）

●語り手…誰の視点で描かれるか。

・一人称…ある人物（「私」など）の視点から語る。

・三人称…第三者の視点から語る。

●表現技法

比喩（直喩・隠喩・擬人法）、体言止め、倒置、対句、反復、省略などの表現技法を用いて印象を強める。

●象徴や**情景描写**

象徴的なものや情景を通して人物の心情が描写されることがある。

例題

【　】の箇所の表現の仕方について、正しく述べているものを選びなさい。

ア　文末は敬体で、やさしく語りかけるように状況を述べている。
イ　「わたし」の緊張を、漢語を多用した硬い文体で表現している。
ウ　心情の変化を、思った内容もまじえながら細かく描いている。

〔　　〕

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)　本文の表現の仕方として、正しく述べているものを選びなさい。

ア　「わたし」の視点から、状況や心情が語られている。
イ　第三者の視点から、状況が写実的に描かれている。
ウ　「わたし」と三人姉弟それぞれの心情が述べられている。

〔　　〕

(2)　——線①「三人とどうやって遊べばいいかわからなかった」とあるが、三人姉弟とどう接したらいいかわからない「わたし」の心情を、直喩を用いて表現している一文を探し、最初の三字を答えなさい。

□□□

(3)　——線②「しんとして、空洞のようだった」とあるが、この箇所の表現の仕方を正しく述べているものを選びなさい。

ア　直喩を用いて、人がいなくなった家の中の様子を表現している。
イ　倒置を用いて、緊張が解けた「わたし」の心情を強調している。
ウ　擬態語を用いて、「わたし」の怒りを象徴的に描いている。

〔　　〕

(4)　本文の表現の特徴として正しいものを選びなさい。

ア　登場人物の交流の様子を、会話文を通じて描いている。
イ　比喩を用いて、「わたし」の心情を印象的に描いている。
ウ　登場人物が次第に打ち解けていく様子を細かく描いている。

〔　　〕